

ポスター発表 / 医療安全対策、リスクマネジメント

2019/10/14 10:30~12:00 ポスター会場 海峡メッセ下関 4階 イベントホール (P1-1)

[P-078] 10:30~12:00

調剤業務トータル支援ITシステムの開発 (第33報) 分析ソフトより得たデータを用いた2店舗間の未然に防がれたエラーの分析

[筆頭著者]吉川 香奈美 (すずらん薬局)

[共著者]

南 陽介 (すずらん薬局)
関原 弘喜 (株式会社 クカメディカル)
片寄 勝邦 (株式会社 クカメディカル)
梶田 賢司 (株式会社 クカメディカル)
宗本 忠典 (株式会社 クカメディカル)
中室 克彦 (摂南大学)

【目的】当薬局グループは独自開発した医薬品・業務管理を目的とした調剤業務トータル支援ITシステム(以下ITシステム)を保険薬局へ導入し、薬局業務のエラーの低減化と医薬品管理を行っている。本ITシステムにはピッキングデータや日々の未然に防がれたエラー (以下全エラー) データも全て保存されている。

今回、我々は保存されたデータを担当別・時限別・薬品別・エラー分類別に月単位で集計、分析するソフトを開発した。この分析ソフトより得た月単位データならびにこれらデータを用い、さらに2店舗間のエラー分析を以下の方法により行った。

【方法】分析ソフトより得た時限別 (時間、曜日、日) データ及びこれらを元に手作業にてデータの抽出等を行い、表計算ソフトを用いてテーブルを作成、2店舗間の全エラーについて比較、解析を行った。

【結果】時間別においてピッキング件数と調剤エラー発生率との間に、関係性は見られなかった。ピッキング件数が多くなる時間帯よりも、ピッキング件数が少くなる時間帯に調剤エラー発生率が上昇している時間が見られた。しかし、ピッキング件数が増加すると全エラー件数が増加することが分かった。曜日別において2店舗共に、ピッキング件数は曜日により差がみられたが、曜日別における調剤エラー発生率は、2店舗共にピッキング件数には依存していなかった。日別において全エラー件数は、2店舗共にピッキング件数と処方箋枚数の増加に依存的に増加していたが、全エラー件数の増加に対するピッキング件数の増加と処方箋枚数の増加は、2店舗間でその影響度が異なった。

【考察】分析ソフトのデータを利用することにより、日別においては、全エラー件数はピッキング件数の増加、処方箋枚数の増加に対して共に増加する傾向があることが分かった。店舗 (営業形態や受付処方箋の処方内容等) の違いが、全エラー件数の増加に対するピッキング件数及び処方箋枚数の影響の大きさの違いを反映している可能性が考えられる。

手作業分析を含め今回行った解析を薬品別・エラー分類別に応用した結果が、分析ソフトに自動的に処理できるように反映させることで、全エラーの発生状況や傾向をより効率的に把握することが可能となり、今後、大きな変化を迎えるであろう調剤過誤防止対策に寄与するものと考えられる。

【キーワード】調剤過誤防止、ITシステム、分析ソフト、調剤業務、エラー